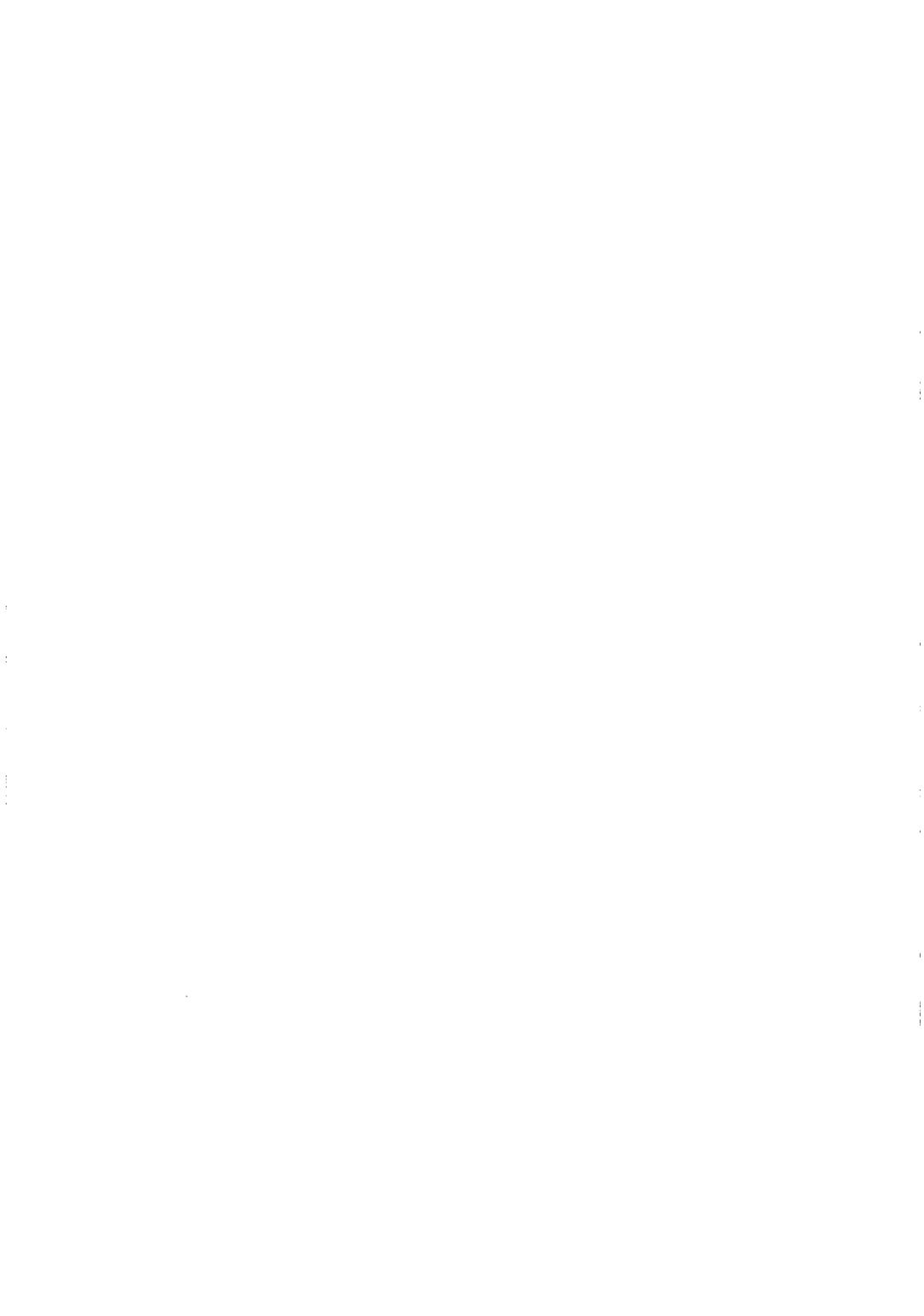


慶應義塾図書館史





序

慶應義塾図書館が三田山上に建設されてから、今年で既に六十年の歳月を経た。図書館が義塾における学問研究と教育に果たした役割は極めて大きなものがあり、図書館の歩んできた道はまた義塾の発展のあとを示すものでもある。昭和二十年代の半ばまでは、図書館は三田における学問研究の中核ともなっていたが、その後における研究室の急速な整備に伴って、研究室と相補なって研究者や学生に種々の便宜を提供してきた。昭和四十五年以降は、義塾の総力をあげて作成した研究教育情報センター計画に基いて、新しい三田情報センターの組織の中で、図書館は研究室と一体となり、また、日吉、医学及び理工学情報センターと協力して、義塾の学問研究に貢献することとなった。

昭和四十四年六月に図書館長に選任されてから、私は図書館のこれまでの歩みを想い起し、歴代館長の事績やこれに協力した館員の努力を尋ねようとした。けれども、慶應義塾百年史にも図書館に関する記事は意外に少なかった。図書館の貴重な蔵書のうちには塾内外の多くの人の厚意によって収められたものがあり、また、それらが館員の地道な長い努力によって推持されてきたにもかかわらず、この図書館の歴史が書き残されていないのは残念なことである。

塾にも定年制が施行され、先輩の教職員が次第に去っていくのを見ると、今のうちに図書館を中心とした義塾の姿を書き残すことが必要ではないかと思った。幸い、この企画について高村象平、前原光雄、佐藤朔の最近三代の館長

の賛同をえたので、その執筆を館員としての経歴の最も長い伊東弥之助君に依頼した。それは昭和四十五年五月頃だったと思う。同君は現在の三田情報センターでは、テクニカルサービス部長の要職にあるが、その業務の余暇に史料を探索し、古老の記憶を書き留めながら、比較的短期間にこの図書館史をまとめた。伊東君の学殖と経験によって初めて本書が刊行できたわけで、深くその労を謝すものである。

大学図書館史としては、京都大学附属図書館六十年史があると聞いているが、私立大学図書館でその歴史を公刊したのはこれが最初のようなのである。慶應義塾は今から百十年前、福沢諭吉の私塾から出発したという私立大学でも特異な成立過程を辿っているだけに、その図書館史は各方面に好個の資料を提供するものと信じている。

昭和四十七年一月

慶應義塾図書館長 高 鳥 正 夫

凡 例

- 一 「慶應義塾図書館史」は昭和四十五年四月慶應義塾大学研究教育情報センターの設立によって、慶應義塾図書館もその中に組み込まれた段階に、企劃されたものである。
- 一 造本の体裁は大体「慶應義塾百年史」に拠ったが、内容は「百年史」が学制や施設の変遷に重点が置かれたのに対し、本書は図書館の成立、建設、発展に貢献あった人々の努力を中心に、やや読物風に記述した。
- 一 頁数の関係から引用文の典拠は省いたところが多い。これらは「百年史」「福沢論吉全集」などを参照されたい。
- 一 本書は三田の慶應義塾図書館の歴史であって、第二次大戦以後中央図書館制度をとって、四谷、日吉、小金井地区にも分館を持つようになったが、それら分館の記述は本館に關係する限りの記述であって、詳述しなかった。
- 一 巻末の年表は図書館の主項目のほかに、慶應義塾関係と参照事項の二項目を加えた。大学図書館は大学内の一施設であることは当然であるが、同時に社会事象に直接・間接の影響の下にある。ここにあげられた記述は本図書館に何らかの影響があったと考えられるもののみ記入した。
- 一 附録に慶應義塾大学研究教育情報センター規程、三田情報センター規程及び慶應義塾図書館規則を加えた。四十五年四月以降はこの規程の下で運営されるので、参考のため掲げた。
- 一 最後に本図書館は戦災で事務室を焼いたため多くの史料をなくしている。従って懐旧談や個人所蔵の史料にたよるところが多かった。協力された多くの方々には厚き謝意を表したい。

慶應義塾図書館史 目次

口 絵 (慶應義塾図書館)

序 (高島正夫)

凡 例

第一章 ズーフ部屋の流れ 一

一 鉄砲洲時代 一

二 新銭座から三田へ 九

三 「書籍出納の規則」 一六

四 教科書貸与制の存続 二六

第二章 初期図書館 三五

一 文庫と大学部書館 三五

目 次

二 「書籍館規則」……………	四三
三 初代監督田中一貞……………	五一
四 慶應義塾図書館の誕生……………	五九

第三章 五十年記念図書館……………

一 創立五十年記念事業……………	六九
二 八角塔のある風景……………	七七
三 新図書館の運営……………	八六
四 田中監督の晩年……………	九四

第四章 大地震から戦争へ……………

一 二代監督占部百太郎……………	一〇五
二 三代監督小泉信三……………	一一三
三 建物の復興と新書庫……………	一二〇
四 小泉監督の図書収集……………	一二九
五 四代監督高橋誠一郎……………	一三九

- 三 前原光雄館長の抱負……………二五九
- 四 新図書館計画委員会の発足……………二六八
- 五 佐藤朔館長のビジョン……………二七九
- 六 研究・教育情報センター計画……………二八九
- 七 高鳥正夫館長の就任……………二九七

おわりに……………三〇七

年表……………三三三

統計……………三三四

付録(慶應義塾大学研究教育情報センター規程・三田情報センター規程・慶應義塾図書館(三田)規則)……………三四〇

後記(伊東弥之助)……………三四五

図 版 目 次

鉄砲洲奥平中屋敷とその周辺	四	増築完成後の図書館	一三七
新銭座塾舎平面図	一一	図書館を出られる秩父宮	一三八
三田の新塾舎	一五	高橋誠一郎	一四二
初期の蔵書印	二六	学徒動員	一五七
大学部玄関	三九	防空演習	一六一
煉瓦講堂	四七	野村兼太郎	一七〇
田中一貞	五七	ステインドグラスの廃址	一七七
一般読書室	六一	戦災の図書館	一八三
図書館開館記念絵葉書	七六	図書館復興落成式	二〇〇
三田通りから丘の上を望む	八四	北里記念医学図書館	二二五
ステインドグラス	九三	慶應義塾藤山工業図書館	二二六
閲覧室	九七	図書館学科の教授達	二三五
占部百太郎	一〇六	藤山記念日吉図書館	二四八
小泉信三	一一四	高村象平	二五〇

目次

新設された雑誌コーナー…………… 二六四
前原光雄…………… 二七三
佐藤朔…………… 二八一

六

三田研究・教育情報センター…………… 二九六
高島正夫…………… 二九九